

Workshop on Japanese Old and Rare Books

March 3, 2017

Art History Seminar Room,
C. V. Starr East Asian Library

Lecture on Nara-e hon, *Bunshō Zōshi*

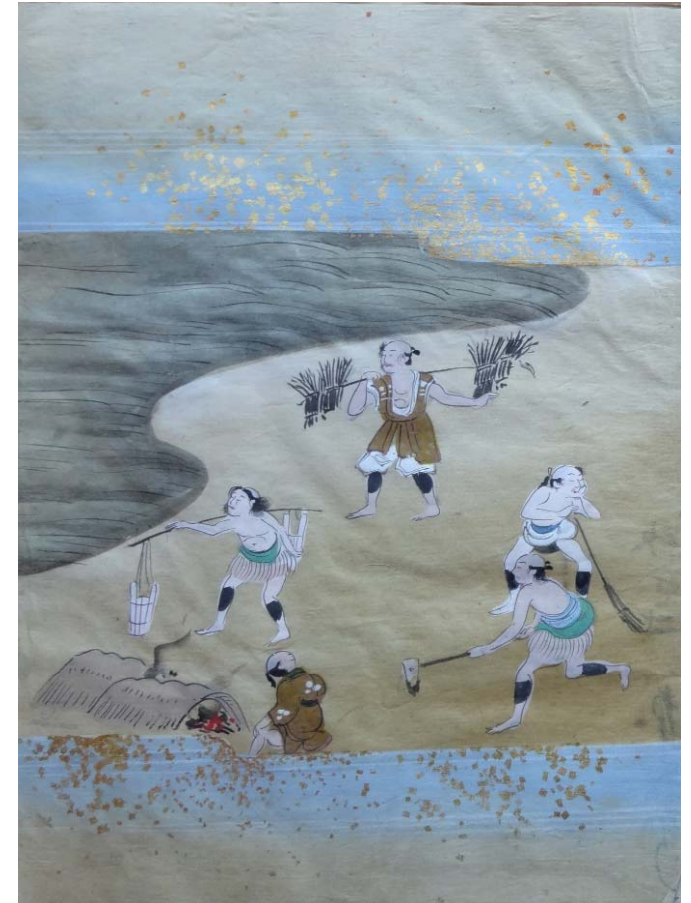
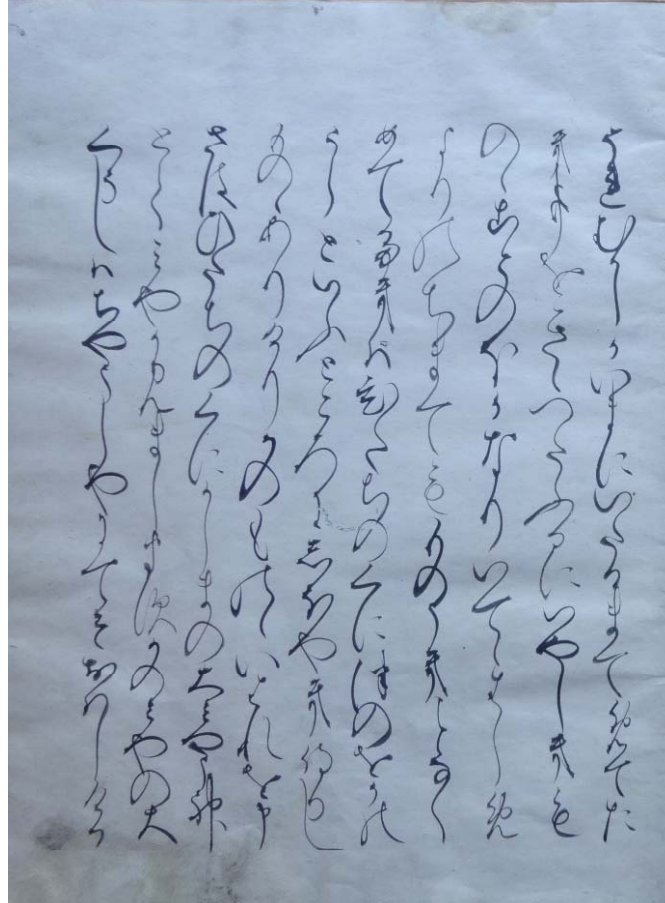
奈良絵本『文正草子』について

National Institute of Japanese Literature

KOIDA Tomoko

国文学研究資料館助教 恋田知子

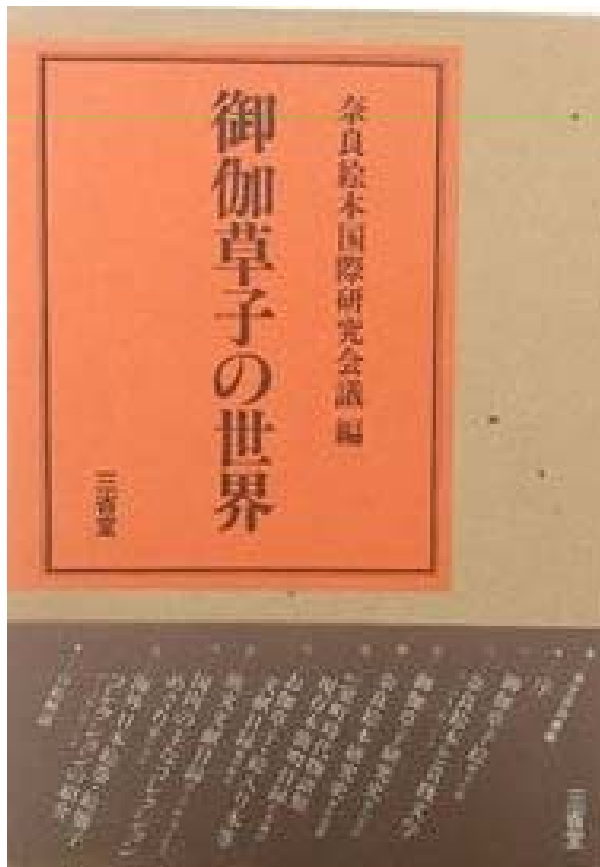
文正草子 *Bunshō Zōshi*, 2809, Mitsui Manuscripts



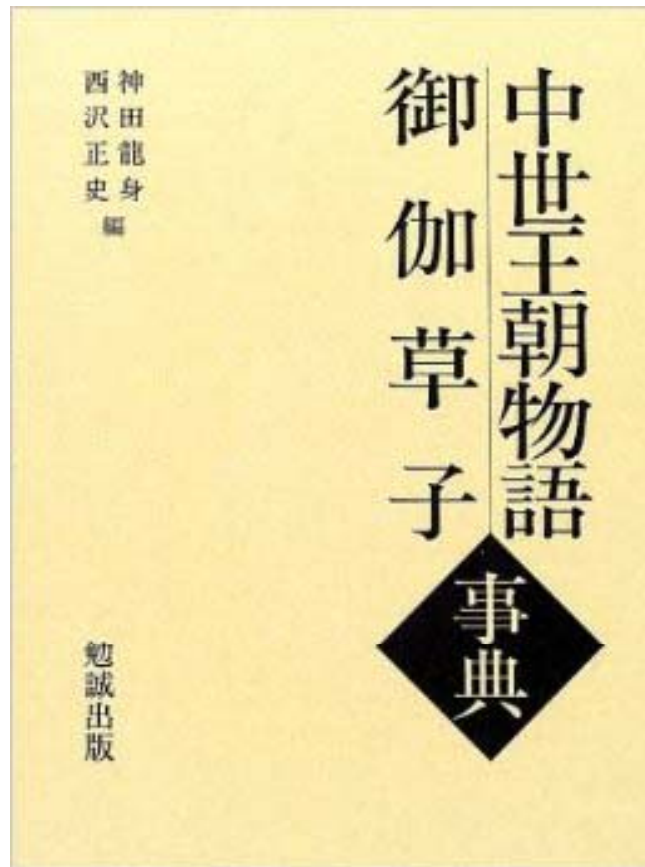
Otogi-zōshi お伽草子 (popular vernacular fiction)

14世紀から17世紀にかけて多数制作された短編の物語群であるお伽草子(室町物語)のひとつ。常陸国鹿島大明神に仕えていた文太(のち、文正)が塩焼きによって長者となり、申し子によって得た二人の娘がそれぞれ二位の中將、帝へと嫁ぎ、一族繁栄する立身出世の庶民物。享保年間(1716-36)に流布した渋川版御伽草子23編の巻頭を飾り、伝本はお伽草子中、最多。室町末期から渋川版にいたるまで多数あり、奈良絵本や絵巻も数多く伝存する。

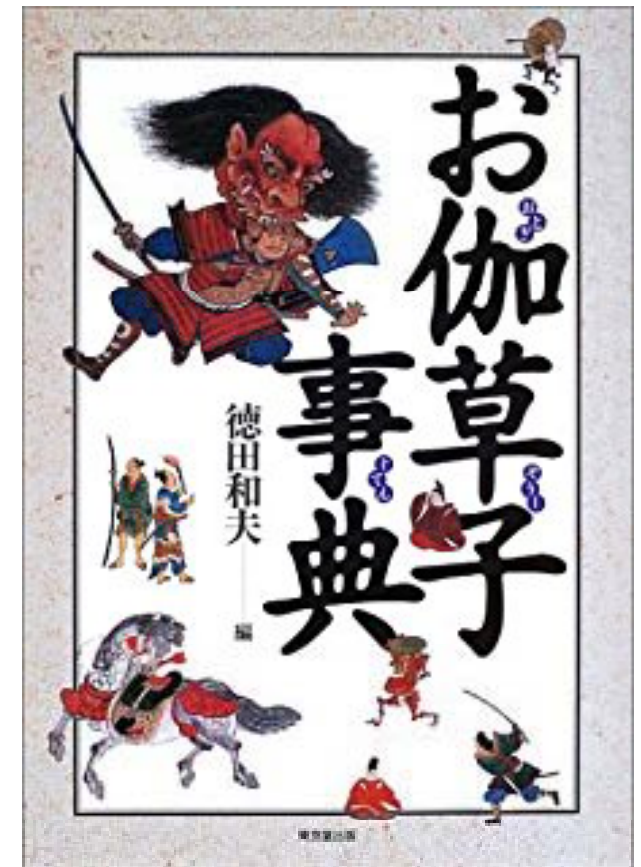
お伽草子 *Otogi-zōshi* を調べる



Otogi-zōshi no sekai, by
Nara Ehon Kokusai
Kenkyū Kaigi (ed),
Sanseidō, 1982



*Chusei ōchō monogatari
otogizōshi jiten*, by
Kanda Tatsumi and
Nishizawa Masashi. (ed),
Benseisha Shuppan,
2002. ¥27,000



Otogizōshi jiten, by
Tokuda Kazui (ed),
Tokyōdō Shuppan, 2002.
¥7,344

文正草子 *Bunshō Zōshi* の伝本

国文学研究資料館

日本古典籍総合目録データベース Union Catalogue of Early Japanese Books
館蔵和古書目録データベース Catalogue of Early Japanese Books at NIJL

戻る

【著作一覧】

検索条件: [全項目: 'ぶんせう']

該当件数: 2件 (1-2件目)

全項目 検索 表示件数 100

全選択 全解除 著作詳細

No.	統一書名, 国書レコードか否か, 国書内同名異書連番, 分類, 作品著者名, 成立年, 書誌件数
<input checked="" type="checkbox"/>	1 文正草子, K, 1, 室町物語, 117, 6882
<input type="checkbox"/>	2 変名用文章, K, 1, 黄表紙, 深川/錦鱗作, 天明三刊, 1, 1691209

著作ID	6882
統一書名	文正草子 (ぶんしょうぞうし)
巻冊	二巻二冊
別書名	[1] ぶんしやう(ぶんしょう) [2] ぶんしやうのさうし(ぶんしょうのさうし) [3] 文正物語(ぶんしょうものがたり) [4] ぶん太物語(ぶんたものがたり) [5] 塩うりぶん太物語(しおりのぶんたものがたり)
分類	室町物語
著作注記	〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。〈欧〉欧州所在日本古書総合目録にもデータあり。
国書所在	【写】国会(慶安元写一冊)(三草紙絵巻の内、二軸)、内閣(墨海山筆八九)、静嘉(下巻欠、一冊)、宮書(三軸)、九大(三巻一冊)(一冊本二部)、京大(「塩焼文章草子」、三冊)(二巻二冊)(一冊)、教大(寛永八写二軸)(一冊)、実践(「飛たち花かた」、一冊)(中巻欠、二冊)、東大(三巻三冊)(二冊)(一冊)(三巻一帖)、東大露亭(「なかむかし物語」、一冊)、東北大狩野(三巻三冊)、日大、広島大(三巻三冊)、竜谷(上・中巻二冊)、京都府(寛永頃写一冊)、日比谷東京(一冊)、岩瀬(文化一〇写一冊)(二冊)(「しほりぶんしやう」、二軸)、米沢興讓(江戸初期写三巻三冊)(三巻三冊)、栗田(一冊)、大東急(三軸)、天理(江戸初期写三巻三冊)(「弾正物語」、下巻欠、一冊)、穂久邇(零本、寛文頃写一軸)、陽明(室町末期写一冊)、横山重(慶安元写一冊)(一冊)(二部)、[補遺]早大(三冊)【版】<承応二版>旧三井本居<明暦四版>国会<寛文四版>香川大神原、東大史料、日比谷加賀、鶴舞(下巻一冊)、蓬左、大東急、多和、茶図成篁、横山重<寛文一版>静嘉<元禄七版>横山重<正徳三版(「ぶん太物語」、二巻一冊)>国会、東博、香川大神原(下巻欠、一冊)、東大露亭、東北大狩野、日比谷東京、岩瀬、大東急、茶図成篁、天理、横山重、[補遺]日比谷諸家<刊年不明>静嘉、東洋岩崎、香川大神原(上巻欠、一冊)、京大、教大、慶大、芸大美大(「ぶんしやうの御さうし」、一冊)、東大、東北大狩野、日大(下巻一冊)、大阪府、高知(三巻三冊)、日比谷加賀、日比谷東京(一冊)、岩瀬、鶴舞、雲泉(「よみそめ文しやう」)、大橋(一冊)、甘露堂、桜山、神宮、住吉(三冊)、大東急、茶図成篁(三冊)(「ぶん太」、一冊)、天理、祐徳、竜門、尾崎久弥、横山重、[補遺]早大&なお御伽草子の内【複】〔活〕岩波文庫お伽草子・御伽草子・校註日本文学大系一九・新型名著文庫お伽草子・新釈日本文学叢書二輯七・日本古典文学大系御伽草子・室町時代物語集五・有朋堂文庫御伽草紙

文正草子 *Bunshō Zōshi* いろいろ



徳川美術館蔵『文正草子』絵巻 尾張徳川家11代斉温夫人の婚礼調度



明星大学図書館蔵『文正草子』絵巻



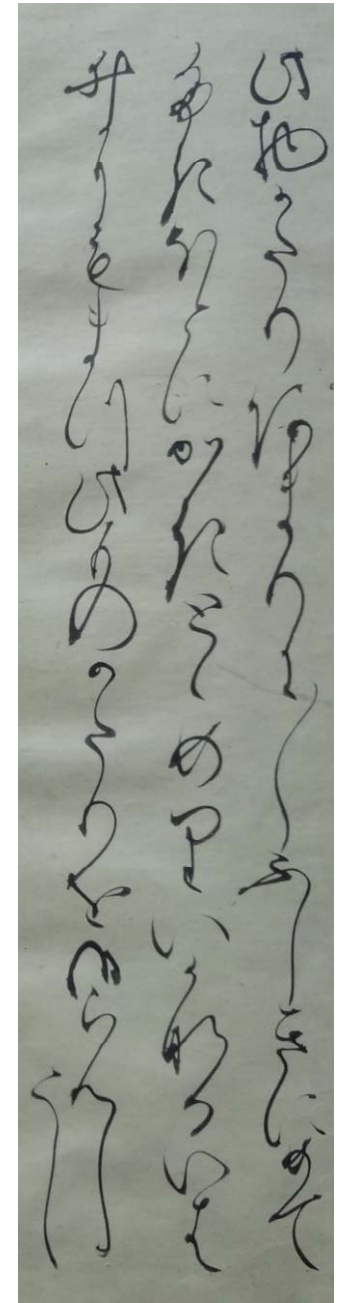
<https://doi.org/10.20730/200006842>

国文学研究資料館蔵『文正草子』奈良絵本

貴重書99-77-1~3

庶民が立身出世する「めでたく尽くし」の祝言性から、正月読み初めの吉書や嫁入りの調度品にされるなど、豪華な絵巻・絵本が多数制作された。

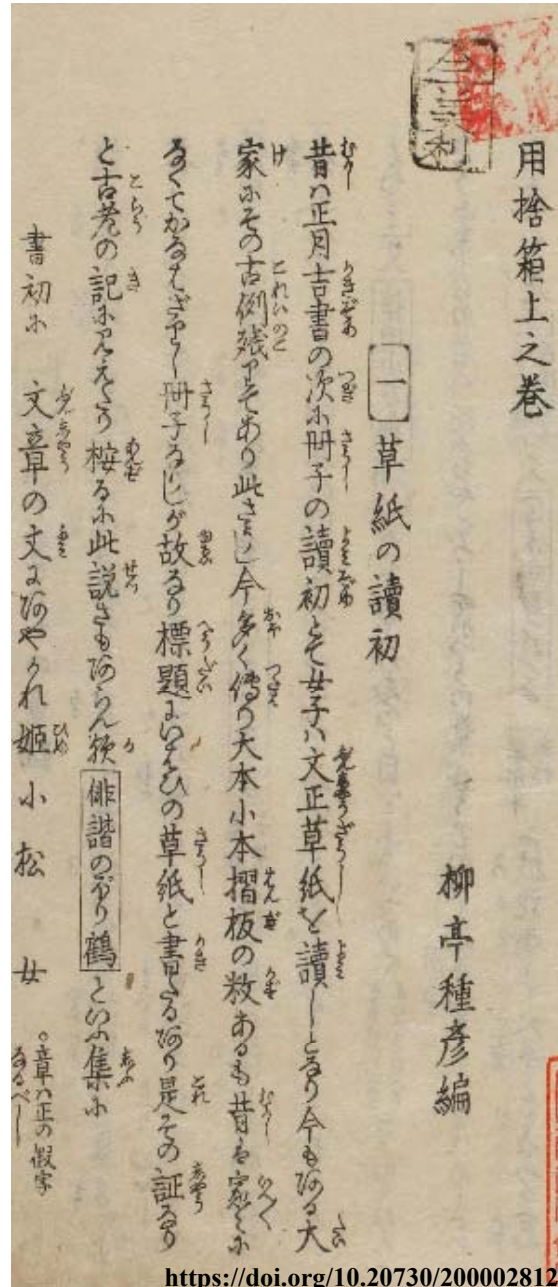
正月読み初めの吉書



UCB本『文正草子』末尾

UCB本『文正草子』末尾

此物がたり、あまりに／＼ふしぎにめでたきほどにかきとゞめり。いかなるいはるにも、まづ此ものがたりを御らんじ候べし。



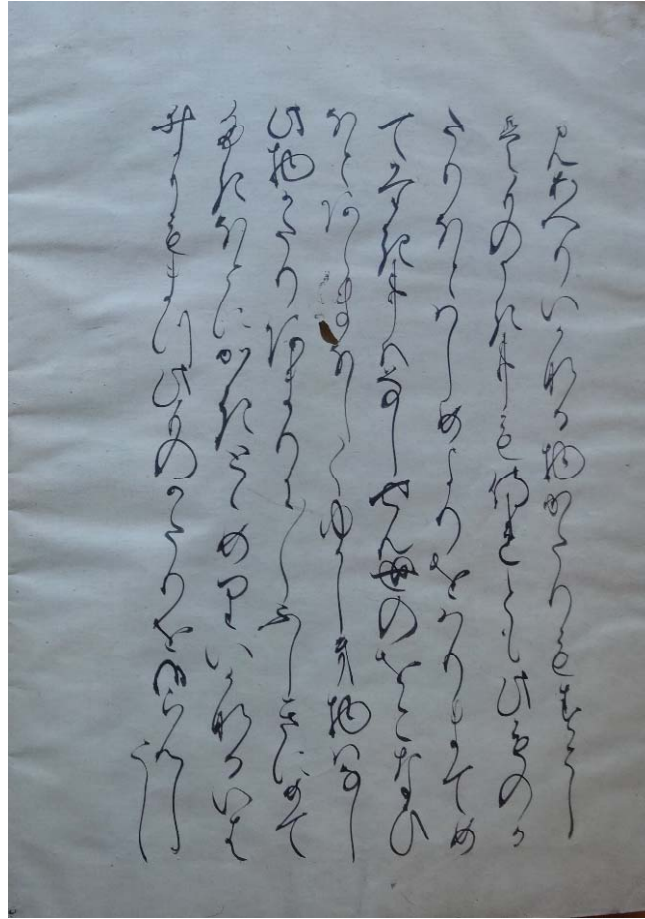
国文研蔵『用捨箱』冒頭

一般ナ5-85-1~3

柳亭種彦『用捨箱』上之巻 天保十二年（一八四一）刊

昔は正月吉書の次に冊子の読初とて女子は文正草紙を読しとなり。今もある大家にその古例残りてあり。此さうし今多く伝り大本小本摺板の数あるも昔は家々になくてかなはずりし冊子なりしが故なり。標題にいはいの草紙と書たるあり。はその証なりと古老の記に見えたり。（後略）

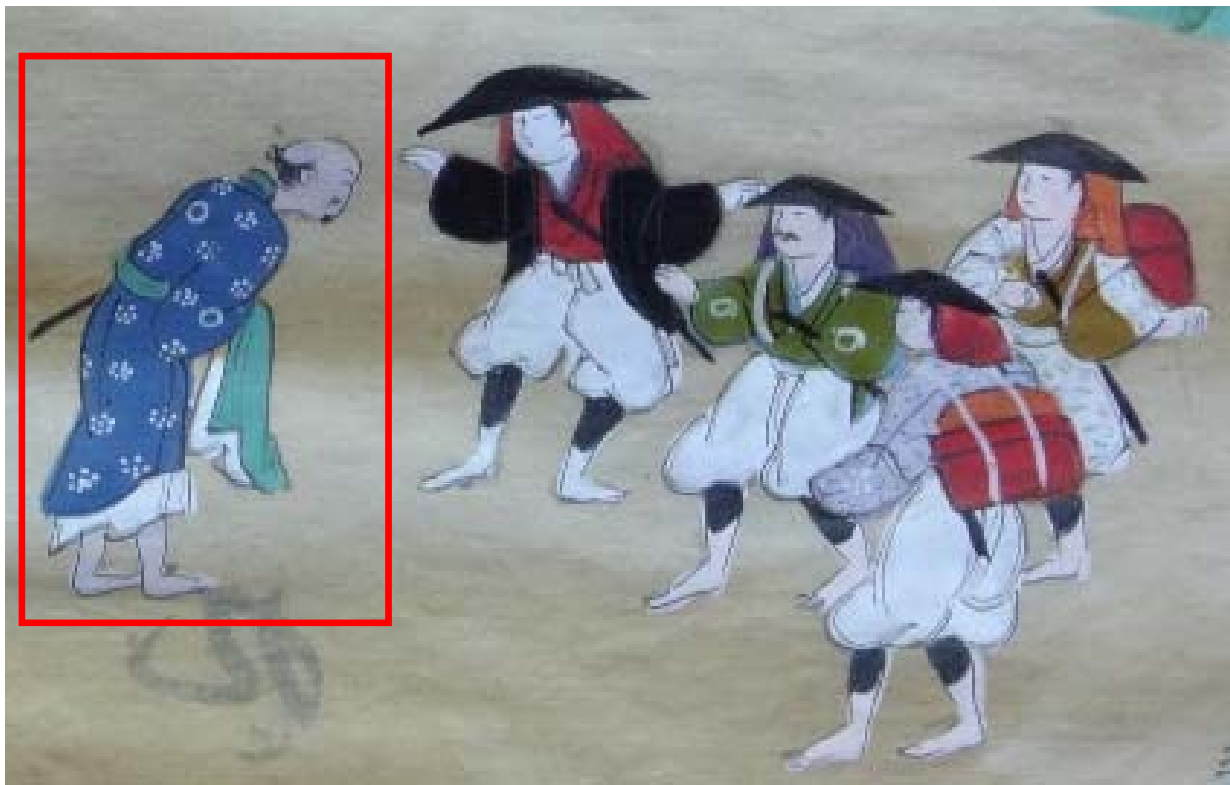
文正草子 *Bunshō Zōshi*, 2809, Mitsui Manuscripts



Otogi-zōshi お伽草子 (popular vernacular fiction)

[寛文・延宝]写。上中下三卷三帖。列帖装。半紙本。23.3×17.5。原装紺地表紙に金泥で水辺の草木や霞を描く。原題簽(表紙中央、無辺、金泥で水辺の草木を描く)に「ぶんせう 上(中、下)」と墨書。見返は金紙に沙綾形文様。料紙は鳥の子紙。奥書・識語なし。本文半丁10行。字高:18.5cm内外。挿絵:上巻片面6図、中巻片面5図、下巻片面3図・見開き2図。上下の霞に金切箔を散らす。

UCB本『文正草子』 *Bunshō Zōshi* の特徴



UCB蔵『文正草子』奈良絵本 「見通しの尉」



貴重書99-77-1~3 <https://doi.org/10.20730/200006842>

国文研『文正草子』横型奈良絵本A



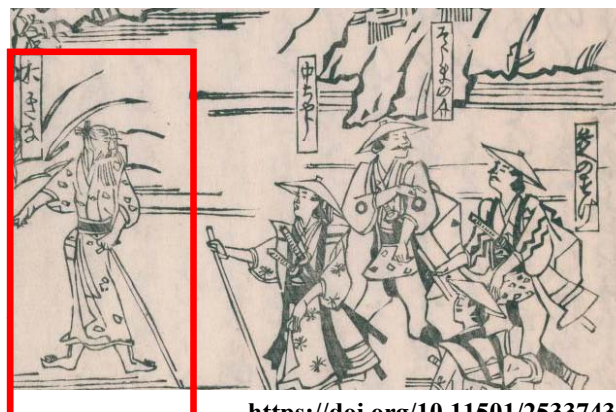
<https://doi.org/10.20730/200021064>

国文研『文正草子』絵巻 貴重書99-192-1~3



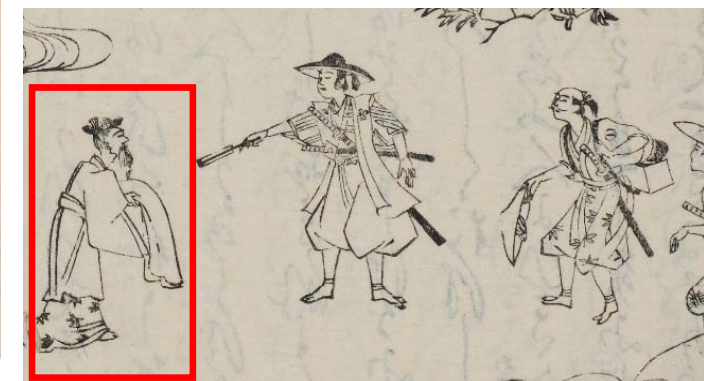
一般タ4-56-1~3 <https://doi.org/10.20730/200008317>

国文研『文正草子』横型奈良絵本B



<https://doi.org/10.11501/2533743>

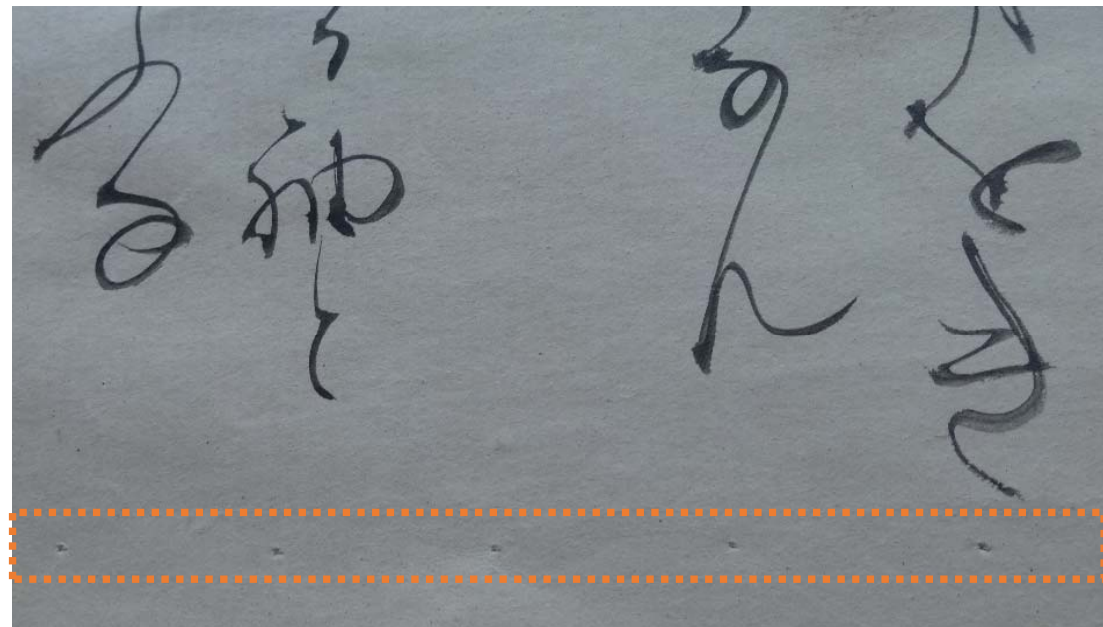
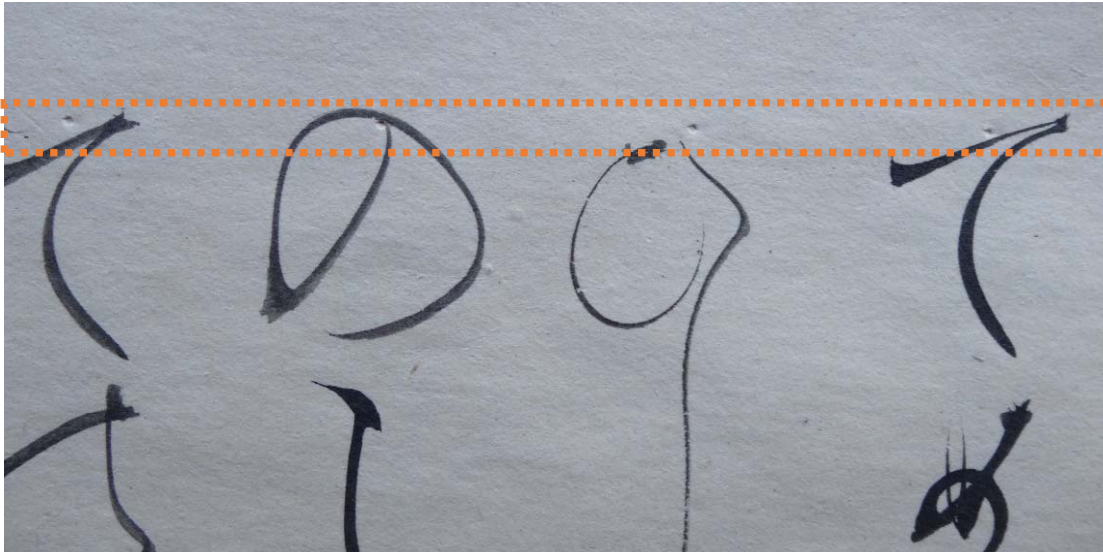
国会図書館蔵『文正草子』明暦4年刊



渋川版御伽文庫『文正草子』

UCB本『文正草子』 *Bunshō Zōshi* の特徴

奈良絵本の制作過程



「針目安」(針見当) *Hari-meyasu*

料紙の各行の首尾に針で開けた穴。書写の整正を目的として施された目印。寛文・延宝(1661-81)頃に絵草子屋などで量産された横型奈良絵本や半紙本(雁皮紙・間似合紙)にしばしば見られる。奈良絵本に限らず江戸初期の注釈書や故実書にも認められる。

* 伊藤慎吾「奈良絵本の針目安」(『室町戦国期の文芸とその展開』三弥井書店、2010年)など参照。

UCB本『文正草子』 *Bunshō Zōshi* の特徴

奈良絵本の制作過程



挿絵の裏に「文正」の文字や漢数字などの墨書が認められる。貼り付ける順序を示したもので、絵と本文の制作が分業されていたことがわかる。「あまやとり」と書いて消した箇所も見え、同時期に同じ絵草子屋でお伽草子『しぐれ』（別名雨やどり）を制作していて、その挿絵と混同した可能性なども考えられる。

* 石川透『奈良絵本・絵巻の展開』（三弥井書店、2009年）

* 恋田知子『異界へいざなう女－絵巻・奈良絵本をひもとく』（平凡社、2017年近刊）